

29年度【自己評価結果公表シート】

認定こども園育成館幼稚園

1. 本園の教育目標

30年度にスタートする新要領を具現化するために、幼児期の終わりまでに育ててほしい幼児の具体的な「10の姿」をイメージして、一人一人の発達の状況を踏まえながら、教育活動を行っていくことを目指す。そして幼小接続の具体的な取り組みに資する。そのために主体的な活動である遊びを通して、身の回りの事象に興味をもち、探求し思考する過程を大切にしたい教育を目指す。特にまた、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、教員との信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と十分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指していく。さらに仏教情操教育により、思いやりのある差別のない心を育てる。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

30年度に幼保連携型認定こども園教育・保育要領が完全実施されることを踏まえて、教育課程の内容を確認し、教職員の共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、本園としての中・長期のビジョンを明確化し、本園が今後担う役割について検討する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解をはかる。	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説版を全教職員に配布し、常に計画や記録をとる時の指針にする。
認定こども園の状況を踏まえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	幼保連携型認定こども園教育・保育要領にも示されているように、園に求められる社会的なニーズも変化してきている。こうした背景を踏まえて、本園が認定こども園としてこれから長期的にどのような社会ニーズに答える必要があるか、具体的に検討を始めている。
教育の質の向上のために、園内研修を充実させるとともに、各種団体主催の研修会・研究会に積極的に参加する。	処遇改善加算等Ⅱ対象者がキャリアアップに取り組み、幼児の発達の姿を捉えるために各分野の研修会に積極的に参加する。また園内研修会を定期的実施し、日々の幼児の姿について話し合う機会をもつようにし、毎日の朝礼や定期的な職員会議で自由闊達に意見が開示できる環境をつくっていく。
保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。	定期的開催する保育参観時の懇談会や保護者会理事会などの際に、行事や日常の園運営面などについて出された意見に対して、必要なものについては園の考え方を示し、改善すべきものは改善するように取り組むつつある。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、それぞれ自己評価し、全体研修会等での話し合いを通して、本園としての方針を明確にすることができ、それを実践する礎とすることができた。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
安全管理	施設設備の面では30年2月に第2園舎の建て替えが終わり、園舎4棟すべて耐震構造になり、防犯カメラや午睡時の監視カメラ等も整備された。今後は、あらゆる自然災害への対応に向けて、教員の意識づけ、並びに危機管理マニュアルの作成などソフト面の充実に取り組みたい。
特別支援教育・すこやか保育(佐野市)	幼児に対応した個別の指導計画の作成をし、医療・福祉の関係機関との連携のもと、保護者との信頼関係を築いていく。
園に対する保護者の満足度の把握	建学の精神と仏教保育の理念に則り、子育て中の保護者が期待するこども園像を把握し、現代社会において求められる認定こども園の姿を確認することで、本園のビジョンを策定する基礎としたい。

6. 学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であるとみとめられる

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められる